

南山大学人類学研究所・中部人類学談話会共催
南山大学人類学研究所「天文学と人類学の融合」第2回公開講演会

人はいかにして時を知り、 季節を愛でるのか



—天文学と人類学の協同アプローチ—



2017年3月5日(日)13:00 開場

南山大学名古屋キャンパスS棟S46教室

入場無料、事前登録不要

南山大学人類学研究所

Tel 052-832-3111(代表)

E-mail ai-nu@ic.nanzan-ac.jp

HP <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINRUIKEN/>



- 13:30-13:40 挨拶 後藤 明 (南山大学人類学研究所所長・中部人類学談話会会長)
- 13:40-14:40 講演1 「文明の属地性の天文学的側面に関して」
谷川 清隆 (国立天文台・特別客員研究員)
- 14:50-15:50 講演2 「古代アンデスのひとびとは暦をどう数えたか」
佐藤 吉文 (南山大学人類学研究所・非常勤研究員)
- 15:50-16:05 コメント1 後藤 明
- 16:05-16:20 コメント2 高田裕行 (国立天文台・専門研究職員)

2015年度より開始したサイエンスと人類学の出会いを目指す「天文学と人類学の融合」第2回公開講演会。今回は人類の時空間認識の基礎である天文現象を、地球上の異なった地点において人類がどのように認識しているのかを議論する。そして人類が共通にもっているだろう「暦」のような基本的な認識枠組みの発達について考察する。

